

2-1-2 子ども・子育て支援

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
保育	①子どもの安全が確保され、子育てと仕事を両立させたい家庭やひとり親家庭が安心して就労できる環境が整えられている。 市民実感度	①1 待機児童解消に向けて、保育所の開設や保育士の確保に取り組みます。(こども課)	中保育園給食室の保育室への改修や、H31年4月の「きたやまと保育園」の開園により定員増を図り、待機児童解消に努めた。R2年度の「わらべ学園」開園に向けて、補助金交付など支援を行った。また、「資格をいかそう! 相談会」や「保育園・こども園見学ツアー」を実施し、潜在保育士の発掘に取り組むなど、多方面から待機児童減少に取り組んだ。(R2.4.1待機児童数(実質待機):65人)
		①2 保護者のニーズに合わせた保育事業を継続するとともに、保育サービスのさらなる充実に取り組みます。(こども課)	公立保育所4園、私立保育所等22園のうち、全園で延長保育、私立9園で一時預かり保育、私立1園で休日保育、私立1園で病後児保育を実施した。また、病児保育を2か所で実施し、保育者のニーズに合わせた保育サービスの充実に努めた。
		①6 子どもたちが地域の中で、安心して遊び、大人たちと交流できる場・機会を提供します。(こども課)	国が創設した放課後子どもプランの一つとして「放課後子ども教室推進事業」を実施し、放課後子ども教室を市内4小学校で開催した。これにより放課後の子どもたちが、地域の人と交流しながら、安全・安心して活動できる拠点(居場所)をつくることができた。
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
就学前教育	②就学前教育の充実と幼稚園の長時間預かり又はこども園化が進んでいる。 市民実感度	②1 多様化する保護者ニーズに応えるため、預かり保育の長時間化、実施日の拡大について検討します。(こども課)	南こども園と認定こども園生駒幼稚園において、1号認定児の早朝・延長預かり保育を実施した。また、その他の園での実施日拡大に向けて、10月から桜ヶ丘幼稚園で、17時までの延長と水曜日のモデル事業を実施し、その結果を検証するなどサービス拡大に向けて取り組んだ。
		②2 地域での幼稚園ニーズや園児数の推移等を勘案しながら、こども園化を含め、地域に合った幼稚園の今後のあり方を検討します。(こども課)	生駒市学校教育のあり方検討委員会において、こども園化を含めた今後の市立幼稚園のあり方を検討し、令和2年2月に答申を受けた。これを受けて、今後、幼稚園のこども園化を含めた施設規模の適正化について検討する。
		②3 就学前教育の充実を図るため、幼稚園と地域、保育所、認定こども園及び学校との交流、連携を図ります。(こども課・教育指導課)	保幼小接続推進会議を年間3回開催し、年間を通じて交流を行った。また、年度末には校区ごとの取組を成果報告集としてまとめ、各校園に配布するなど、就学前教育の充実を図った。
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
子育て支援	③地域や社会が保護者に寄り添い、親の成長を支援することにより、子どものより良い育ちを実現している。 市民実感度	③1 子どもたちが安心して成長できるよう、地域子育て支援拠点事業及びファミリーサポート事業等を一体的に提供することで、子育て支援体制を充実します。(子育て支援総合センター)	乳幼児のいる保護者同士の交流や子育て相談の場を提供し、親の成長を支援することができた。ファミリーサポート事業においては、利用促進の他各種講座を開催し、会員や子育て支援人材の確保に努めた。また、R2.3月に支援会員から援助会員への転換制度を導入し、援助会員の増加に努めた。
		③2 子育てや家庭で心配なこと等の相談事業を実施し、子育て世帯を支援します。(こどもサポートセンター)	18歳未満の児童についての育児や家庭のさまざまな心配ごとの相談を来所や電話で対応し、家庭相談員が子育て親子へ寄り添った(相談の件数:3,039件、相談ダイヤルでの相談件数:38件)。また、養育支援が特に必要と判断した33家庭に、延べ198回の訪問支援を行い、サポートに努めた。
		③3 世代間交流を含め、子育てサロン等、地域で子育てを支え合う取組や活動を支援します。(子育て支援総合センター)	子育てサークル等の育成・交流支援のため、出前保育7件・どこでも講座1件を実施した。また、本市の子育て支援に関する情報の提供や託児を行う他、活動場所の提供、各サークルの情報発信の支援を行うことで、世代を超えて地域で子育てを支え合う取組をサポートした。

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
潜在保育士を確保するため、市内全保育園・こども園と連携した見学ツアーを実施した。放課後の子どもたちの安全・安心な居場所となる放課後子ども教室を、地域の方々の参画を得て開催した。	これまでの保育所整備の取組によって、定員数を増加し、保育需要の増加に一定対応することができたが、まだ、3歳未満児を中心に待機児童が見られるため、今後も小規模保育所等の整備が必要である。 課題解決のために必要な要素 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	① 保育所利用定員数(人) 目指す値: R2 (2,468) 実績値: R2 (2,625)
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C1	子どもの安全はある程度確保され、待機児童数も減少しつつあるが、まだ完全には解消されておらず、安心して就労できる環境の整備にはもう少し努力が必要のため。	実績値
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
多様な主体から参画いただいている「生駒市子ども・子育て会議」や「生駒市学校教育のあり方検討委員会」において、多方面からの意見をいただき、各施策へ反映した。	全幼稚園で長時間の預かり保育を実施するためには、人員確保が課題となる。令和2年度には壱分幼稚園で夏季休業中の預かり保育をモデル実施するため、その結果と合わせて、長時間預かり保育の費用対効果を検証する。 課題解決のために必要な要素 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	② 預かり保育利用園児数(人) 目指す値: R1 (18,000) 実績値: R1 (12,926)
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C2	就学前教育の充実は一定実現しており、預かり保育のサービス拡大に向けての取組が進んでいるものの、幼稚園のこども園化はまだ進んでいないため。	実績値
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
スタイリングウイークに子育てシェアのAsMamaに参加してもらい、子育てシェアに関する周知を行った他、いこまコープのイベントに参加し、公共施設に足を運ばない子育て層への事業周知を図った。また、ファミサポ事業の周知のため、気楽ネット会議に参加した。	みっきランドやファミリーサポート事業が中心となって、地域で子育てを支え合う関係を更に構築していく必要がある。また、子ども家庭総合支援拠点として、地域の全ての子ども・家庭に対する切れ目のない支援を行うために、関係各課と連携しながら進めていく必要がある。 課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	③ 市直営拠点(みっきランド・はばたきみっき)利用者数(人) 目指す値: R1 (30,731) 実績値: R1 (21,893)
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C1	従来の事業を様々な視点から改善し、地域全体で子育てを支える風土づくりを進めているものの、「5年後のまち」の実現に向けて、子育ての支援に関係する拠点や団体・市民のより効果的な連携など、更なる改善が必要であるため。	実績値

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

2-2-1 学校教育

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
学校教育	市民実感度	①児童生徒一人ひとりの確かな学力を育成するために、社会総がかりで多角的な教育活動が進んでいる。	H30年度に設置した大型ディスプレイを有効活用できる授業を実施するとともに、GIGAスクール構想に基づき、校内LAN及び児童生徒1人1台端末の整備に向けて予算措置等を進めた。今後も、ICT機器を効果的に活用することで教員の業務を効率化し、児童生徒と向き合う時間を増やし主体的・対話的で深い学びを進める。
		①3 ICT機器を活用し様々な教育効果の向上を図り、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境づくりを進めます。(教育総務課・教育指導課)	R2年度施行の学習指導要領を見据え、英語活動の指導力向上や小学生から中学生までスムーズに接続できるような9年間の英語教育のカリキュラムについて検討した。ALTや、英語に堪能な地域人材(わくわくイングリッシュサポーター)を配置することで、地域のかも活用した多角的な教育活動を進めた。
		①2 小学校外国語活動について、小学校1年生から独自の教材を使用し、外国語指導助手を活用し英語教育を推進します。(教育指導課)	学校創造推進事業や命の大切さを学ばせる体験事業で、児童生徒がその道の達人と呼ばれる地域の方々、様々な体験をしている高齢者等と接することにより、自己有用感や自他の生命を尊重することを学んだ。
		①4 すべての生命を尊重し、自己有用感と相互理解を高めるための心の教育を充実します。(教育指導課)	
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
特別支援教育	市民実感度	②特別な支援を要する幼児、児童、生徒、保護者への通級指導等や教育相談が効果的に行われ、個に応じた支援や教育が定着している。	通常学級に在籍する発達障害のある子どもへのサポートを行うため、就学指導委員会専門部会の調査・判断により、各学校への支援員を各校週6日相当(1.2人/日)配置し、個に応じた支援を行った。
		②1 特別支援教育支援員を市民から募集し、適切に配置します。(教育指導課)	特別支援学級の学習支援、機能回復のためにタブレット端末を配備し、視覚や聴覚等を刺激する取組を行うなど効果的に活用した。学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)等、発達障害のある児童生徒が、通級指導教室(ことばの教室・エル)に通うことにより、特別の教育課程のもと個々の教育ニーズに対応した教育支援を行った。R1年度通級者数193名。
		②5 子どもたちの支援内容等を工夫検討するとともに、情報提供を行います。(教育指導課)	市内小中学校の特別支援学級の児童生徒や、通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒及びその保護者・教師に対する教育相談を専門的知識を有する者で相談を受けた。R1年度相談件数88件。
		②3 特別な支援教育相談に対し、様々な見地から相談対応ができるようにスクールカウンセラー等各種相談員を適切に配置します。(教育指導課)	
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
学校施設	市民実感度	③子どもたちが安心して、笑顔で過ごすことができる教育環境が整っている。	市立幼稚園、小・中学校空調整備事業と中学校トイレ改修工事を実施した。児童生徒が意欲を持って学ぶことができる快適な学習環境の整備により、熱中症予防などの健康面と衛生面への配慮が可能になった。
		③2 学校施設を使いやすく(バリアフリー化を含む)、きれいで快適なものにします。(教育総務課)	PFI事業により、生駒北学校給食センターが6月に完成し、9月から小学校給食及びアレルギー対応食の提供を開始した。(学校給食センター)
		③4 学校給食センターの整備運営事業を推進します。(学校給食センター)	生駒市学校教育のあり方検討委員会から、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化、小中一貫教育の推進などを踏まえた今後の学校教育のあり方について、答申を受けた。今後は答申をもとに子どもたちの教育の充実に向けて、保護者、地域住民との協議を行いつつ、取組を進めていく。
		③3 今後の児童・生徒数を踏まえた学校規模・通学区域等を検討します。(教育総務課・教育指導課)	

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
・児童生徒の理科離れが進む中、先端大や奈良高専と連携し、出前授業や体験教室等を実施している。 ・地域ぐるみの児童生徒健全育成事業では、地域の方々を中心に児童生徒の見守り活動やあいさつ運動などの取組を進めた。法改正もありR2からは地域学校協働活動推進事業へ移行し、地域と学校がより連携できるよう進める。	学校教育を進めるにあたり、様々な家庭環境がある中で、工夫しながら個々に応じた対応が求められる。ハード整備に加え、教師をはじめとした様々な職種の人々が工夫を凝らし事業を展開する必要があるが、財源と人員の確保が不可欠である。事業の見直しやICTを活用することによる業務改善を進め、財源と人員の確保を図る必要がある。	① 自分にはいいところがあると思う児童生徒の割合(%)
課題解決のために必要な要素		目指す値
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()		実績値
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	
B2	ICTを活用した教育の推進や、英語教育に加え、地域人材を活用した心の教育など5年後のまちの実現に向けた取組は進んでいる。一方で、財源や人材の確保などの課題は残っており、社会総がかりで教育活動が進んでいる状況には道半ばであると判断し、進捗度をB2(5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる)とした。	R1 80.0
		R1 79.8
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
・教員を志望する大学生や帝塚山大学の学生から、学びのサポーターを募集し、各小中学校に派遣している。そこで各教科学習の指導補助をはじめ、障がいのある児童生徒の介助補助等を行っている。	特別支援教育については、支援を必要とする児童生徒が増加している中で、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる支援体制の強化が必要となる。しかしながら、支援体制を強化するためには、財源と人員が必要となり、それぞれ限られた中でユニバーサルデザインの授業やインクルーシブ教育の進め方の検討が必要である。	② ことばの教室・通級指導教室エルへの通級者数(人)
課題解決のために必要な要素		目指す値
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()		実績値
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	
B2	特別な支援を要する児童生徒や保護者への支援は進んでいる。一方で、対象者の増加や、財源・人材の不足等の課題は残っており、個に応じた支援や教育が完全に定着するには道半ばであると判断し、進捗度をB2(5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる)とした。	R1 217
		R1 193
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
小中学校のエアコン設置に当たって、ふるさと納税や基金による寄附金を財源の一部として活用した。	学校施設は公共施設全体の約8割を占めており、その改修には多額の予算を要する。財源負担の軽減と平準化を図るため、長寿化に向けた計画的な改修の順位付けをしていく必要がある。	③ 施設の満足度(小中学校)(点)
課題解決のために必要な要素		目指す値
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()		実績値
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	
C2	小中学校の空調設備だけでなく、校舎の耐震化やトイレの洋式化といった環境面の整備は計画的に進んでいるところであるが、厳しい財政状況を踏まえた施設の老朽化への計画的な対応と、市全体の学校教育のあり方について早急に検討を進めていく必要があるため。	H29 59.4
		H29 59.4

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

2-2-2 青少年

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
健全育成	①地域、学校、家庭が連携し、地域力を活用した支援により、子どもや若者が生き生きと過ごし、健やかに成長する環境が整っている。	①3 青少年が健やかに成長生きる力を身につけるため、各種団体等と連携し、様々な学びと体験の場の提供等を行います。(生涯学習課)	市子連などの地域団体や奈良高専、山麓公園指定管理者と連携しながら、青少年向けの様々な学びや体験の機会を提供した。とりわけ、令和元年度は市内小中学校全教室へのエアコン設置により「IKOMAサマーセミナー」などのイベントを市内小学校で開催することで、学校施設を活用した新たな事業の展開を図ることができた。
		①5 家庭の教育の向上、保護者への学習の浸透、拡大を図るため、地域の力を活用した家庭教育支援を充実します。(生涯学習課)	有志の市民により結成された家庭教育支援チーム「たけのこ」と連携して、学校園を会場として親子の交流イベントを3回実施し、256人の参加があった。子どもたちだけでなく保護者も「たけのこ」メンバーと触れ合い交流することで、チームの目標である「『地域の大人はみんな親』といえる地域づくりを進めることができた。
	市民実感度	①1 市青少年指導委員と連携し、街頭巡回指導による青少年の見守りや非行防止の取組を進めます。(生涯学習課)	各学校やPTA、自治会など各種団体から推薦を受けた市民を青少年指導委員として委嘱し、市内全中学校区において青少年の非行防止や安全確保などを目的とした巡回指導を年間216回実施し延べ1,079人が参加するなど、地域の青少年を見守る取組を進められた。
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
自立支援	②すべての子ども・若者が安心して成長できる機会が確保され、自立した社会生活を送っている。	②1 不登校、ニート、ひきこもり等に関する相談窓口の体制を整備し、相談できる環境を充実させ、地域と連携した支援を行います。(生涯学習課)	生駒市子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を教育支援施設内に設置、運営を行い相談対応を行っている。同窓口については不登校等が増える時期に市内全自治会掲示板へのポスター掲示や、広報紙での特集記事掲載などにより周知を図ったこともあり、令和元年度の相談件数が1,018件(実相談者数118人)となり、多くの不登校・ニート・ひきこもり当事者や家族を支援できた。
		②2 「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」参加機関との連携により、不登校、ニート、ひきこもり等困難を抱える子ども・若者の自立に向けた支援に取り組みます。(生涯学習課)	市内で子ども・若者支援に携わる官民あわせて38の関係機関が参加する「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」について、関係機関同士の情報共有のための会議を定期的に開催するほか、個別ケースの支援についても必要に応じて関係機関とユースネットいこまで連絡・調整を行い総合的な支援につなげた。
	市民実感度		

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標																							
多様な主体との協創による取組	これまで様々な学びや体験の機会を提供している団体の一部はメンバーの高齢化や担い手不足という問題を抱えており、またその事業の実施内容についても現在の青少年や保護者のニーズに対応しきれていないという課題がある。また、事業内容によっては本市が関与し続ける必要性に乏しいものもあり、今後のまちの目指す姿に沿った事業の見直しや再構築を進めていく必要がある。 青少年指導の取組については、スマートフォン等の普及など青少年を取り巻く環境が大きく変わっていることから、これらの状況やニーズに合わせて取組内容を見直す必要がある。	① 青少年健全育成事業参加人数(人)																							
		<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr> <tr><th>参加人数</th><td>5,263</td><td>3,799</td><td>5,219</td><td>5,300</td><td>5,500</td><td>5,700</td><td>5,900</td></tr> </table>	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	参加人数	5,263	3,799	5,219	5,300	5,500	5,700	5,900	<table border="1"> <tr><th>目指す値</th><th>実績値</th></tr> <tr><td>R1</td><td>R1</td></tr> <tr><td>5,300</td><td>5,219</td></tr> </table>	目指す値	実績値	R1	R1	5,300	5,219
		年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
参加人数	5,263	3,799	5,219	5,300	5,500	5,700	5,900																		
目指す値	実績値																								
R1	R1																								
5,300	5,219																								
<table border="1"> <tr><th>細分野の進捗度</th><th>進捗度選択の理由</th></tr> <tr><td>B2</td><td>市民同士のつながりの中でIKOMAサマーセミナーや家庭教育支援チームなどの新たな事業や取組が進められているなど、青少年の健やかな育成に向けた市民同士の連携が進んでいると考えるため。</td></tr> </table>	細分野の進捗度	進捗度選択の理由	B2	市民同士のつながりの中でIKOMAサマーセミナーや家庭教育支援チームなどの新たな事業や取組が進められているなど、青少年の健やかな育成に向けた市民同士の連携が進んでいると考えるため。	<table border="1"> <tr><th>課題解決のために必要な要素</th></tr> <tr><td><input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制</td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/> その他 ()</td></tr> </table>	課題解決のために必要な要素	<input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制	<input type="checkbox"/> その他 ()																	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由																								
B2	市民同士のつながりの中でIKOMAサマーセミナーや家庭教育支援チームなどの新たな事業や取組が進められているなど、青少年の健やかな育成に向けた市民同士の連携が進んでいると考えるため。																								
課題解決のために必要な要素																									
<input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制																									
<input type="checkbox"/> その他 ()																									
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標																							
多様な主体との協創による取組	「ユースネットいこま」は年々相談者が増加しているものの、市内にはまだ、ひきこもりや不登校などの悩みを抱えながらも必要な支援につながれず地域で孤立する当事者・家族はまだ多いと考えられ、地域や学校と連携して継続的に掘り起こしを行う必要がある。また、相談者増に対応できる相談体制の拡充も必要である。 さらに、自立した社会生活のためには、自らの特性等も踏まえた就労等の進路選択・決定が不可欠となるが、現状では進路決定に至る者がまだ少ない。社会での他者との関わり経験も浅い者が多いため、今後は就労体験以外に地域での市民活動やボランティアなどの体験の場を増やすことで、当事者の経験値を高めて自立につなげていきたい。	② ユースネットいこま相談者数(人)																							
		<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr> <tr><th>相談者数</th><td>83</td><td>95</td><td>118</td><td>97</td><td>98</td><td>99</td><td>100</td></tr> </table>	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	相談者数	83	95	118	97	98	99	100	<table border="1"> <tr><th>目指す値</th><th>実績値</th></tr> <tr><td>R1</td><td>R1</td></tr> <tr><td>96</td><td>118</td></tr> </table>	目指す値	実績値	R1	R1	96	118
		年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																
相談者数	83	95	118	97	98	99	100																		
目指す値	実績値																								
R1	R1																								
96	118																								
<table border="1"> <tr><th>細分野の進捗度</th><th>進捗度選択の理由</th></tr> <tr><td>B2</td><td>ユースネットいこまの相談者数も目標値を超えるなど相談支援窓口としての認知度は上がってきており、様々な困難を抱える子ども・若者を支援する仕組みが機能しつつあると考えられるため。</td></tr> </table>	細分野の進捗度	進捗度選択の理由	B2	ユースネットいこまの相談者数も目標値を超えるなど相談支援窓口としての認知度は上がってきており、様々な困難を抱える子ども・若者を支援する仕組みが機能しつつあると考えられるため。	<table border="1"> <tr><th>課題解決のために必要な要素</th></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制</td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/> その他 ()</td></tr> </table>	課題解決のために必要な要素	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制	<input type="checkbox"/> その他 ()																	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由																								
B2	ユースネットいこまの相談者数も目標値を超えるなど相談支援窓口としての認知度は上がってきており、様々な困難を抱える子ども・若者を支援する仕組みが機能しつつあると考えられるため。																								
課題解決のために必要な要素																									
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制																									
<input type="checkbox"/> その他 ()																									

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

3-3-1 生涯学習・スポーツ

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
生涯学習	市民実感度	①2	地域に眠る様々な特技や専門知識・技術を持った市民を発掘し、まちづくりに参加できる機会を提供します。(生涯学習課)
		①5	寿大学を充実させ、高齢者の学習意欲を引き出し、まちづくりに貢献できるような人材の発掘、育成をします。(生涯学習課)
		①1	市民の自発的なグループ等の学習活動を支援するとともに、生涯学習の成果を還元する機会を提供します。(生涯学習課)
①1		R1年8月に開催したIKOMAサマーセミナーでは、81種類にのぼる様々なジャンルの授業が行われ、うち41人が「先生」として新たに参加していただいたほか、先生や参加者の一部が実行委員会のメンバーに加入するなど、新たな人材の発掘とまちづくりへの参画につなげることができた。	
		寿大学について、R2年度からのクラブ学習の一部新設やカリキュラムの改正を行い、学習内容の充実を図ることができた。また、寿大学の卒業生らがH30年度末に立ち上げた「寿生駒連絡協議会(気らくネット)」と連携し、小学校の学年菜園の改善活動や幼稚園預かり保育の支援など地域還元の活動につなげることができた。	
		自主学習グループによる公開学習会活動を支援し、令和元年度は344回の学習会が行われた。グループの学習成果の発表の場である「自主学習グループフェスタ」は台風のため中止となったが、多くのグループが参加を予定し準備を行うなど、活動が活発に行われた。	
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
図書館	市民実感度	②1	市民一人ひとりがだれでも身近に本と親しめる場を創出します。(図書館)
		②3	市民団体と協働して子どもの読書活動を推進します。(図書館)
		②2	多様な図書館サービスを提供するために、官民の諸事業との連携、情報提供に加え、ボランティアの育成と協働を推進します。(図書館)
②1		ビブリオバトル市内中学生大会の開催(118人参加・ビブリオバトル全国大会はコロナ対策のため中止)や市民との協創事業を行い、その結果、人と本、人と人を繋ぎ読書の機会や語る力の育成を進めた。	
②3		家庭・地域・学校など子どもに関わるさまざまな分野の人材をのべ172人集めて「トライ！生駒子ども読書3.0会議」を開催した。互いに連携して子どもの読書環境の整備に向け実践的な活動を行うために子ども読書推進に関する課題共有、目標設定を行うことにより、子どもと本をつなぐことに繋がった。	
②2		図書館をより利用しやすく身近に感じてもらう、まちづくりの拠点とするために、音訳ボランティアによる「耳で楽しむ本の会」等を開催(16回306人参加)し、来館が困難な人に対しては宅配サービス(377回)を行った。また、新たに図書館託児事業「こあら」のボランティア養成を行い、人材発掘・養成、協働に努めた。	
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
スポーツ	市民実感度	③1	市民が身近な地域で気軽にスポーツ活動を行えるよう総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発を行うとともに、各地域の実情に応じたクラブを育成します。(スポーツ振興課)
		③2	障がい者のスポーツ活動状況を把握し、障がいの種類や程度に応じた事業を企画・運営します。(スポーツ振興課)
		③3	スポーツに憧れや夢を抱くとともに、スポーツを身近に感じることができるようトップアスリート等を招き、ふれあうことができる機会をつくります。(スポーツ振興課)
③1		各種イベント時や学校等を通じて、総合型地域スポーツクラブ活動内容等の周知啓発チラシの配布を行うことにより、会員数の増加を図った。(H30:752人→R1:807人)また、市内3クラブで「生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議」を開催し、各クラブ事業の紹介等の意見交換を行い、各クラブの健全運営に繋がった。	
③2		障がい者を対象とした体育館開放、屋内温水プール開放を実施し、スポーツをはじめるきっかけを提供した。また、障がい者用スポーツ用品を購入し、イベント等で活用するとともに、障がい者関係団体等に貸し出し、障がい者のスポーツ活動の促進に繋がった。	
③3		トップアスリートとのふれあいの場として、国内トップ選手によるトレイルランニング教室や、元プロ野球選手による野球教室を開催した。なお、台風の影響や新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ラグビーワールドカップ日本大会出場選手によるラグビー教室とびっこ相撲体験会は中止となったが、定員を上回る応募があったことから、事業への関心の高さを感ずることができた。	

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
様々な市民や団体・企業との協働により「IKOMAサマーセミナー」を開催し、多くの市民に学びの場を提供した。	学習の場の提供については様々な形で実施できているが、人材を発掘して地域での活躍につなげるためには、人材を誘引する仕組みの構築やその仕組みがうまく機能するよう丁寧な働きかけや支援が必要である。	① 生涯学習施設の利用者数(人)
	課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
B2	それぞれの取組においても成果を上げてはいるものの、新型コロナウイルス感染拡大により生涯学習施設利用や各種事業の実施にも影響が及びつつある中で「学び」を「まちづくり」につなげるための働きかけ等を継続していく必要があると考えるため。	R1
		1,142,000
		実績値
		R1
		1,060,697
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
・おはなし、音訳、宅配、託児などの各種ボランティアを養成・活用した。また、ビブリオバトル、本活部などの協働事業を行った。 ・「まちかど図書室」(11団体)への開設・運営支援に努めた。これらにより、多くの人に本をより身近に感じてもらえることができた。	人と人をつなぐまちづくりの拠点になるためには、さらに多様な属性をもつ層の厚いボランティア人材の発掘・育成と図書館運営への活用を進め、図書館をより身近に感じてもらう必要がある。	② 団体貸出登録数(件)
	課題解決のために必要な要素 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ボランティア人材の発掘)	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
B2	市民団体との協働による事業開催や多方面でのボランティアの人材発掘とマンパワーの活用など拡充に努めており、人と本をつなぐ取組は進んでいるが、図書館がまちづくりの拠点として人と人をつなぐことができるよう今後一層取組を進める必要があるため。	R1
		100
		実績値
		R1
		110
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
市内各総合型地域スポーツクラブの運営会議への参加や、障がい者関係団体との意見交換による障がい者スポーツ事業の企画・開催、市体育施設指定管理者と協働してのアスリート事業の開催など、必要に応じて関係団体や関係者と連携を図り、各施策や事業を進めた。	地域スポーツ推進の中心的存在として活躍が期待されている「総合型地域スポーツクラブ」の存在意義や活動内容を、地域住民に正しく伝えることができていないため、クラブ会員数が伸び悩んでいる。今後は、クラブの健全運営を目指すため、各クラブと連携し地域住民等への理解を得るための活動が必要である。あわせて、新規クラブの設立に向けた施策を進める必要がある。	③ 市、総合型地域スポーツクラブ、体育施設指定管理者等のスポーツイベントの参加者数(人)
	課題解決のために必要な要素 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C1	スポーツイベントの参加者数は目標値を上回っているが、誰もが身近な地域で気軽にスポーツにふれあえる環境とするには、総合型地域スポーツクラブの運営や組織の更なる強化が求められる。5年後のまちの実現に向け、既設クラブの周知啓発や、新規クラブの設立に向けた施策を進める必要がある。	R1
		40,900
		実績値
		R1
		43,861

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
歴史・ 伝統文化	①多様な施設が拠点となり、幅広い世代の市民が生駒の歴史文化に興味を持ち、住んでいる地域に愛着を持つ市民が増えている。	①4 生駒の歴史・伝統文化に関し、生駒ふるさとミュージアムホームページやデジタルミュージアム、出版物等で情報発信を行います。(生涯学習課)	本市の歴史や文化を身近に感じてもらえるよう、引き続きデジタルミュージアムによる発信を行い、アクセス件数や新規ユーザーの増加にもつながっている。また、「鷹山家文書翻刻事業」を平成30年度から継続して実施し、年度末に「鷹山家文書調査報告書」を発刊することができた。これまで埋もれていた地域の歴史資源について市内外に広く公開できたことで、生駒の新たな魅力の発信につながった。
		①5 生駒の伝統文化である茶釜や茶道に親しむ機会の拡充を図ります。(生涯学習課)	市内のすべての小学6年生(1,312人)を対象に、郷土歴史学習の一環として「茶道体験教室」を実施した。市茶道協会の協力を得て、本格的な茶席の所作を一通り体験することで、生駒の伝統文化や特色ある地場産業に興味を持つきっかけとすることができた。
	市民実感度	①1 市内にある有形・無形の文化財・伝統芸能の保存と活用を進めます。(生涯学習課)	有形文化財の保護・保存のための改修費用の助成を国・県とともにを行い、また伝統芸能の伝承のための助成を行うなど、市内の貴重な歴史資源である文化財の保存と活用に努めることにより、これらの文化財を多くの市民に親しんでいただくことができた。 ・高山八幡宮本殿建造物保存事業 ・宝山寺・金春家武芸関係資料保存事業
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
文化振興・ 文化活動	②文化芸術事業を積極的に鑑賞し、文化活動に活発に参加する市民が増え、豊かな感性が育っている。	②2 市民、NPO等と行政との協働で実施する生駒らしい文化芸術の普及と市民文化の向上に寄与する事業を支援します。(生涯学習課)	「市民みんなで創る音楽祭」や「生駒市民文化祭」を多くの市民とともに開催した。「音楽祭」については市内の文化財も会場として多彩なジャンルの音楽を市民に提供し、4,461人の市民に参加いただくほか、市民吹奏楽団の演奏会事業にも取り組み、「音楽のまち生駒」として音楽文化の発展に貢献できた。
		②1 指定管理者と連携して、市民が文化芸術事業の鑑賞及び活動の参加を促す機会を充実します。(生涯学習課)	生涯学習施設指定管理者であるよしもと・南海共同事業体と連携し、クラシック音楽をはじめ様々なジャンルの芸術・文化公演を行い、20,074人の参加があり、全公演の参加者の満足度平均も97.4%と好評を得るなど、市民が身近に文化芸術に親しめる機会を提供することができた。
	市民実感度		

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標						
<p>・生駒ふるさとミュージアムにおいて、指定管理者と連携し、様々な市民や団体等の協力を得て生駒の歴史を様々な視点からひもといた「企画展」の開催をはじめ、「歴史と文化入門講座」を連続開催するなど、生駒の歴史文化に関心を持ってもらえるよう、学習の拠点として多様な事業を行った。</p> <p>・茶道協会と連携して、子どもたちが身近に本市の文化にふれる機会を提供した。</p>	<p>多世代の市民が本市の歴史や文化に関心や興味を持つきっかけとなる事業をさらに展開するほか、学びが一過性にとどまらず次のステップにつながるような工夫が必要である。核となる生駒ふるさとミュージアムや文化財愛護・保存団体等との連携をより密にして、歴史に興味関心を持ち事業に参加した市民同士をつなぎ、より知的好奇心をくすぐる魅力的な活動を生み出すとともに、まちづくり活動への参加につなげるための働きかけをより強化していく必要がある。</p>	<p>① 歴史文化系講座等聴講者数(人)</p> <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> <tr> <td>① 歴史文化系講座等聴講者数(人)</td> <td>980</td> <td>636</td> </tr> </table>	指標	目標値	実績値	① 歴史文化系講座等聴講者数(人)	980	636
指標	目標値	実績値						
① 歴史文化系講座等聴講者数(人)	980	636						
課題解決のために必要な要素	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>進捗度選択の理由</p> <p>C1 新型コロナウイルスの影響で一部の講座が開催中止となったこともあるが、ふるさとミュージアムでの講座開催数も減少しており、より魅力ある講座や企画等の事業展開を進めていく必要があると考えるため。</p>						
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標						
<p>・市内の11団体から提案を受けて開催した「市民みんなで創る音楽祭」や、多くの市民・団体が出展・出演する「生駒市民文化祭」など、市民や文化芸術団体等と協働した事業を展開できた。</p> <p>・市民吹奏楽団との連携により、子育て世代をはじめ、幅広い世代に音楽を楽しんでもらう機会を提供した。</p> <p>・指定管理事業者の持つノウハウや強みを活かし、幅広いジャンルの芸術文化にふれる機会を提供することができた。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響が最も大きい分野の一つが芸術文化活動である。いわゆる三密回避などの感染防止対策により市内生涯学習施設のホールでの公演も大幅に制限されており、また市民による音楽活動も同様に制限されており、市民が文化芸術に親しむ機会や活動の成果を発表する機会についてもこれまでどおりの実施が非常に難しくなっている。そのような状況の中で、これまで市民とともに築き盛り上げてきた音楽をはじめとする文化芸術活動をどのように継続させていくか、市民や関係団体とともにアイデアや知見を出し合いながら模索していく必要がある。</p>	<p>② 文化芸術活動の参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> <tr> <td>② 文化芸術活動の参加者数(人)</td> <td>36,900</td> <td>37,244</td> </tr> </table>	指標	目標値	実績値	② 文化芸術活動の参加者数(人)	36,900	37,244
指標	目標値	実績値						
② 文化芸術活動の参加者数(人)	36,900	37,244						
課題解決のために必要な要素	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (活動推進に関する新たなアイデアと知見)	<p>進捗度選択の理由</p> <p>B2 新型コロナウイルスの影響で一部の事業が開催中止となったが、各事業は多くの参加者に恵まれるなど活発に進められていると考えるため。しかし今後事業実施にも相当な制限が見込まれる中で事業内容や取組手法の検討において相当の困難も予想される。</p>						

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
 C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等
